

みんなの短歌・俳句2020秋

1年俳句

- 「コロナ禍で 来年こそその 夏祭り」ゆうた
「とりはだの 朝の登校 秋風に」はると
「物足りん 夏がー番 好きなのに」かなな
「コロナでも 季節は変わる 肌寒さ」なおと
「トンボ飛び うれしいぼくの 誕生日」しょうま
「コロナ禍で 夏休みにも 海行けず」こたろう
「肌寒い 私も葉っぱも 衣がえ」はやと
「コロナ禍で 打ち上げ花火 遠ざかる」ひなた
「夏の海 ジャンプ台で 飛び込みを」そうま

1年短歌

- 「今年には厄なるものが大きくて災いありし だが救いあり」しんせい
「波静か水透き通る夏の海 飛び込み台の景色最高」はる
「毎年の夏空に咲く花たちが 今年に咲かず笑顔なき夜空」ののは
「大雨が家や建物飲み込んで あとに咲いてる一輪の花」ひろと
「親孝行 働き過ぎた母親がぎっくり腰で弱っているとき」きこ
「コロナ禍のたくさんの不幸この年は それでも笑顔絶やさずにいる」きょうや
「赤とんぼ久しく見るも短くもよし からすも鳴いて時は夕暮れ」まさや
「ふるさとの戦争などの話聞き 初めて知って驚きばかり」ゆき

2年俳句

- 「夏盛り 焦げ茶に映える 日焼けあと」たかまさ
「マスクして 運動をする 猛暑の日」つかさ
「夏祭り 来年こそは 行きたいな」ゆうこ
「海泳ぐ サッカー疲れの 友だちと」ひかる

「夕焼けに トンボがひかる 季節だよ」つくよみ
「春風に 吹かれて前へ 進むぼく」せる
「せつなさや ふっと感じた 花火見て」めい
「休校中 ひまでひまで エアサッカー」とむ

2年短歌

「授業にて短歌作れと言われたが 手は進まずに時間ときだけすすむ」こうた
「コロナ禍で短縮された運動会 だけど楽しい思い出になる」さえ
「居残りのたった3人で食べる給食 心で応援している駅伝大会」たいよう

3年俳句

「マスク越し みんなの笑顔 スイカ割り」れいや
「団長で 声枯らし 天を指す」れいと
「夏休み 勉強会も ディスタンス」はるき
「コロナ禍で 誰とも会えない 新学期」まや
「声を出し 勝敗決まる 爆竹だ」まさと
「七夕の 川にたくさん 螢たち」かける
「照りつける ゴールに入り ホイツスル」かいと
「夏の風 マスク外して 涼む夕」こうた

3年短歌

「新学期友に会えない毎日に 会いたい気持ち湧いてくる」あすま
「夏の夜川で輝く光たち 暗い世界を照らしてくれよ」わたる
「中体連なくなり悲しむ人々に 代替試合の贈り物」さくら
「なぜだろうテストの点数悪くなる ぼくのせいじゃないコロナのせいだ」たいじゅ
「級友のいろんな表情見られない 去年と違う白い口元」せいた
「休校あひだで間の空いた一限目 新しい教科書いつもの先生」あや